研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-630		18-092	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol intake and risk of erectile dysfunction: a dose-response meta-analysis of observational studies.

アルコール摂取と勃起障害のリスク：観察研究の用量反応メタ・アナリシス

執筆者

Wang XM, Bai YJ, Yang YB, Li JH, Tang Y, Han P.

掲載誌

Int J Impot Res. 2018 Nov;30(6):342-351. doi: 10.1038/s41443-018-0022-x.

キーワード	PMID
アルコール、勃起障害、メタ・アナリシス	30232467

要　旨

目的：
アルコール摂取量と勃起障害の用量反応関連および勃起障害の発症に関連するアルコール摂取量について、観察研究のメタ・アナリシスにより検討する。

方法：
著者 2 名が、キーワード “ethanol” “alcohol” “alcohol intake” “alcohol abuse” “alcohol drinking” “erectile dysfunction” “impotence” “male impotence”を用いて PubMed、Medline、Embase および Cochrane Library を検索し、2016 年 3 月までに英語で出版された学術論文のうち、研究デザインが横断研究であり、結果がオッズ比（OR）および 95%信頼区間（95%CI）であった論文を抽出した。自記式質問票で回答したアルコール摂取量より、習慣的飲酒者 vs 非飲酒者、少量飲酒者（週 21 杯未満）vs 非飲酒者、多量飲酒者（週 21 杯以上）vs 非飲酒者にカテゴリー化し、勃起障害発症の OR（95%CI）および P 値をランダム効果モデルより算出した。研究間の異質性は chi-square-based Q test および I-square test にて評価した。また、一般化最小二乗法を用いてスプライン曲線を算出し、アルコール摂取量と勃起障害発症リスクとの用量反応関係を推定した。

結果：
検索でヒットした 891 論文のうち、研究デザインの異なるものおよび曝露要因がアルコールでないものを除外し、解析対象は 24 論文とした。少量飲酒者は非飲酒者に比べ、勃起障害の発症リスクが有意に低かった（OR [95%CI]: 0.71 [0.59-0.86], P < 0.001）。一方、多量飲酒者および習慣的飲酒者は、非飲酒者に比べ、勃起障害の発症リスクと有意な関連がみられなかった。アルコール摂取量と勃起障害発症リスクの用量反応関係においては、勃起障害の発症リスク（OR [95%CI]）は、非飲酒者に比べ、週 3.5 杯が 0.86 [0.84-0.88]、週 8 杯が 0.74 [0.72-0.76]、週 14.5 杯が 0.66 [0.64-0.69]、週 25 杯が 0.70 [0.67-0.73]、週 36 杯が 0.88 [0.83-0.93]と非直線的な関連を示した（P for non-linearity < 0.001）。

結論：
勃起障害発症について、少量飲酒とは負の関連を示したが、習慣的飲酒および多量飲酒とは関連がみられなかった。